

有機農業の取組⑫ ナチュラルファーマーミング合同会社

＜基本情報＞ 所在地：長崎県雲仙市吾妻町

＜農場概要＞ 有機 J A S 認証ほ場約2.2ha（オリーブ：600本）
従業員：代表含む3名（別途、ほ場での除草作業や
加工作業を福祉施設に依頼（農福連携））



＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 農業関連各種機械装置の開発を行う会社を営んでおり、小豆島のオリーブ産地から搾油機のメンテナンスを依頼され、産地を訪れるうちに栽培に興味を持ち、会社の農業部門としてオリーブ栽培を開始（2008年）。



平成28年（2016年）、ナチュラルファーマーミング合同会社として分社化。海外では、オリーブ葉は医薬品として販売されていることから、健康を意識し当初から葉に特化した有機栽培を実践。

- **令和元年（2019年）有機 J A S 認証取得（農産物、加工品）。**

＜販売について＞

- 県内のテーマパーク、空港、駅、直売所等、地元での販売。その他、食品卸やネット通販。
顧客拡大を図るために県内外の百貨店で
の催事出展。



＜取扱商品について＞

- リーフ（葉）を製品化。
【リーフティー（パック、パウダー）、ノンアルコール飲料、アイスクリームを主とし、副次的に生産したオリーブオイルも販売】

＜病害虫対策・除草対策＞

- 毎日、園地を巡回し、剪定、虫とり、草刈りを実施。
樹間が広く、除草は、乗用管理機が基本で樹木の周辺は手刈り。
また、病害虫対策として、にんにくや唐辛子のエキスを散布。

＜土づくり＞

- 牡蠣焼き小屋から分けてもらった牡蠣殻を、1年ねかせて散布。



＜苦労している（した）ところ＞

- 農業参入する際に50a以上の農地を必要としたが、農地が見つからず、耕作放棄地を借り受け。ほ場は、元々レンコン畑だったため、排水や土づくりに重機による客土造成を行った。
- 自社農園、加工場による安心安全、品質・衛生管理の徹底。

＜今後の展開＞

- 当初、自社以外オリーブリーフ茶を製造・販売する所はなかったが、最近、他産地も参入。他産地のものには「苦くておいしくない」と評価されたものもあり、当社の販売にも影響を受けたため、差別化に向け、基準（例えば、残留農薬200項目未検出、苦み成分でもあるオレウロペインの含有量等）を策定し、取り扱うことを検討中。
- 長崎雲仙を平和（有機・笑顔）のオリーブの町にする。
- 日本唯一の有機オリーブのプラットフォームとなる事を目指す。

【お問合せ先】 TEL. 0957-51-4554

ホームページ： <https://unzen-naturalfarming.com>